

元治甲子變に於ける鯉淵勢

鯉淵尋常高等小学校

市毛幸之介

※二十一頁以後大部分欠落

序

鯉淵勢ト言フ言葉ハ、コノ地オノ入々ヲ知ラナキ人ハナク、又古久シク、  
郷賢記ニモ出テ牛ルシ、水戸藩資料ニモ出テ表ル

然シソノ鯉淵勢ト言フモノハ、如何ナル勢カ、如何ナル活躍ヲシタカ  
ト言フコトニナルト、文献ヲ獵ツテモ、古老ニ訪ナテモ、確實ナモノガ

掴メナイ、或日私ガ関係ノ遺族ヲ訪ネテ、ソノ言ヘ残リレタ事實ノ調査ヲシテ廻

ル上、某氏ガ「コレハ秘藏ノ日誌ニスオ」ト提供ナレタモノガ、  
「現説日誌」トテ鯉淵勢ノ活躍日誌ヲ了ツタノデアリ

コノ日誌コリ鯉淵勢物語ヲ後世ニ残ス唯一ノ文献デ、私ハコノ日誌ヲ

中心ニ、地オノ古老ノ言ヤ、水戸藩末史料ヤ、水戸幕末風俗録、天狗

騒動、筑波水滸傳、等ヲ参考トシテ、コノ稿ヲ草シタノデアリ

サレバ、鯉淵勢ノ起リトソノ活躍、トヲ鮮明ニスルノカ、本「研究」ト

題テハアルカ、ソレダケデハ、ソノ活躍ノ背景テアル、幕末ニ於ケル

水藩ノ状況が明カデナイシテ天狗黨ノ意圖モ鮮明ニ表ホサレナイ  
ソコデコノ研究ハ幕末水藩興廢ノ大恩ヲ述ベ  
テ織リ入レオニ水戸勤王黨ノ人々ノ活動ノ跡ヲ明カニシテ以テ維新時  
時ニ於ケル水藩志士ガ如何ニ天下ニ興シテ勤王ノ為メニ盡サレタカ  
ヲ述ベスルコトニシタノデアリ

最後ニ私ハコノ研究ヲ教育ノ為メニ草シタモリデナリ 郷土研究  
ノ一資料トシテ記述シタモノデアルコトヲ加ヘテ置ク  
幸ニ 雨ノ朝雪ノ夕ニ江湖ノ高鑒ヲ得マシテ維新ノ志士ノ為メ一擲ノ  
涙ヲ賜ハリマスレバ甚幸ノ次言ト存ジマス

昭和十三年一月支那事變翌二年四月

市毛 幸之介

目次

一 筑波ノ義舉

1. 筑波山ニ兵ヲ募ル

2. 日光大平山進出

3. 普生黨ノ起リ

4. 市川藩軍ノ將トナリ武田等ヲ討ツ  
一、激派ト鎮派 二、願入寺合議 三、千波原勢揃

5. 幕府追討ノ軍ヲ発ス

6. 市川等水戸ニ歸リ暴徒ヲ倒ス  
一、高道祖原ノ合戦 二、下妻ノ夜襲

7. 幕府再ビ追討ノ大軍ヲ発ス

8. 筑波勢南下シテ小川ニ陣ス

二 鯉淵勢ノ起リ

1. 小川勢水戸ニ進川等ヲ討ツ

2. 鯉淵勢ノ起リ

3. 田中忠藏ヲ討伐

一、田中源藏 二、中妻村追討 三、上野ノ合戦

三 那珂河畔ノ戦雲

1. 慶應園ニ歸リテ藩札ヲ鎮ノソトス 十九

2. 松平頼徳市川等ヲ討ツ 二十

(一) 本隊水戸ニ向フ (二) 吉田口ノ戦 (三) 磯濱根所ノ戦

(四) 藤田小田郎義ニ立ツ (五) 那珂港ノ戦

(六) 頼徳討徒ノ暴狀ヲ幕府ニ討ル

四 鯉淵勢ノ活躍

1. 小鶴村合戦 二十七

2. 神勢館ノ戦 二十九

3. 常磐表出陣 三十

4. 宍戸表出陣 三十二

5. 小堤村合戦 三十三

6. 狂倉宿追討 三十四

7. 幕軍ノ麾下トナル 三十五

8. 磯濱ノ合戦 三十六

9. 賊徒殘黨ヲ生捕ル 三十八

10. 中妻郷村々ノ討ヲ 三十九

11. 島新羅ノ打合 四十

12 大貫附近ノ戦 世九

13 松平大坂守頼徳陥害セラル 四六

14 塩ヶ崎出陣 五十一

15 中根線迄 五十九

16 市川三左江門奥方階トナル 五七

17 赤綿絆七百入分拜願 五十二

18 前黄縷絆三百入分拜願 五十二

19 部田野原大谷戦 五十二

20 部田野原大谷戦ニ於ケル鯉洲勢 五十二

(一)赤綿絆組 (二)前黄縷絆組 (三)鯉洲勢解散

五 鯉洲ニ於ケル矢狗黨ノ入々 六十三

六 大谷勢ノ最後 六十六

七 筑波勢ノ最後 六十八

八 青生黨ノ最後 七十一

九 鯉洲勢活躍日表 七十八

終り



元治 役ニ於ケル鯉淵勢  
甲子

一 筑波ノ義舉

水戸烈公ハ 尊王ヲ論ジ攘夷ヲ唱ヘテ シバノ幕府ノ忌諱ニ觸レ幽  
閉ノ身トナリテ 終ニ恨ヲ吞ンデ逝キタルモ 幽魂ハ慰ムルニ由ナク水

藩志士ハ悶々ノ中ニ藩主ノ遺志ヲ享ケ尊王攘夷ノ急先鋒トナリタリ

当時幕府ノ外交ハ益々多難ヲ加ヘ 攘夷ノ詔勅ヲ拜スルモ ソノ命ヲ奉

スルヲ得ズ 鎖國ノ議海峽ニ喧シキモ固ヲ鎖ス勇氣ナク 生麥事件ノ発

生ニ及ビテハ全ク幕府ノ優柔不斷ノ脂果斐ナサヲ暴露シテ 海峽ハ実ニ

驚カトシテ志々ハ京都ヲ中心ニ往來頻繁ヲ極メ尊王ノ声ハ海峽ニ滿チ滿

チタリ

斯ル時ニ當リ藤田小田部等ノ一味ハ勤王ノ心堰留ノ難ク 攘夷ノ急先鋒

筑波山ニ義旗ヲ掲ゲ 義兵ヲ募リ 水藩精神ヲ発露シタリ



スル者次才ニ増シ直ニ百六十余名トナリ  
軍議ヲ起シテ日光東照宮ノ廟所ニ立籠リ  
神廟ニ祈願シテ攘夷ノ先鋒  
タランコトヲ決議シ軍隊ノ部署ヲ次々如ク定メテ四月三日筑波山ヲ下  
リ百七十余名ヲ率ヘ野州日光ヘ向フコトナリ又

總帥 田村拙之衛門

總裁 藤田小四郎 竹内百太郎 平谷敬一郎

天勇隊長 須藤敬之進

地勇隊長 根木新平

龍勇隊長 阪部熊五郎

虎勇隊長 三橋 羊六

中軍總長 田中 憲藏

## 2. 日光ニ進出セシム

筑波ヲ發セシ一行ハ四月三日小栗村ニ 四日石橋ニ泊リ 六日宇都宮

田村藤田等ハ時局ノ狀勢甚ダ不利ナルヲ思ヘ又大平山ノ地ノ利必スシモ有利ナルモノニアラストシ山国等ノ言ヲ容レテ五月晦日密兵ヲ大平山ヨリ下シ六月四日是千ニ余ル將兵ハ全ク大平山ヨリ影ヲクマシ兩ビ筑波山ニ據リヌ

## 二 書生黨ノ起リ

### 一 激派ト鎮派

筑波山ニ於ケル藤田等ノ舉兵ハ幕府ニ少カラザル刺撃ヲ與ヘタルト共ニ水戸藩内ニ非常ナル動搖ヲ起シタリ

之ヨリ先キ藤田武田山国等江戸對發ノ所謂激派ニ屬スル人ガノ勢力ハ頗ル盛ニシテ藩内ヲ風靡シタルモ水戸ニ於ケル鈴木岩見守大田丹波守市川三左工門朝日奈茲太郎佐藤圖書等所謂鎮派ノ勢力ハ全ク地ニ落チタリ

サレバ鎮派ノ人々ハ常ニ激派ノ天下ヲ覆シテ己ガ天下ヲテシメント  
シテソノ機ヲ狙ヒ事毎ニ反目衝突ヲ繰返シキタリ

恰モ此ノ秋藤田田村等ノ激派ノ又々攘夷ヲ論シテ波山ニ立籠リ幕  
府ハ怒リテ追討ノ陣ヲ派シ諸所ノ領民ハ軍資ノ強奪ニ苦ミ筑波勢ヲ  
甚シク憎ム由聞キケレバ時コソ良ケレトコレヲ鎮定スル名目ニ於  
テ一擧ニ激派ヲ撃滅スント計劃ヲ進メタリ

## 2. 願入寺會議

コノ年五月初旬石川幹二郎 佐藤弥太夫 川上留四郎 宮田常五郎  
佐藤兵介等三十余名取河川口祝町ノ岩船山願入寺ニ相會シ 激派討伐ノ  
議ヲ凝シヌ

彼等ハ先ツ弘道館ノ書生ニ手ヲ廻シ

「藤田等ハ君公ヲ蔑ニシ幕府ヲ憚ラズ恣ニ尊攘ヲ唱ヘ叨リニ國法ヲ  
破リ諸所ニ良民ヲ苦シメ財ヲ掠ム黙スベカラズ諸子宜シク奮起

シテ之ヲ鎮定スベシ

ト獎ム

諸生、運中氣ニ留ミ、ソノ言ヲ信ジテ、黙シ難トナシ、  
今月十八日、  
賊ニ登リテ重役ニ面会ヲ請メ、藤田等浮浪狂暴徒ヲ鎮定センコトヲ  
論シ、ソノ実行ヲ迫リヌ

鈴木、太田、市川、佐藤、朝日、茶等、兼ネテ石川等ト相違ヲ堪ルコトトテ喜ンデ  
之ヲ容レ、秘カニ激派ヲ巧倒シテ、自家勢カヲ挽回スルノ目途キニアル  
コトヲ喜ビヌ

茲ニ弘道館書生等大擧シテ藤田等ヲ伐ツ事トナリ、藤田等ノ天狗黨ト  
稱スルニ對シテ、書生黨(感)ノ名(也)、四隣ニ轟カス事トナリヌ

### 3 千波原ノ執拗

二十六日、鈴木、市川、朝比奈等ハ弘道館書生ヲ中心トシテ五百三十名ノ  
一隊ヲ組織シ、城下千波原ニ執拗レテ大擧シテ江戸ニ迫リ、藤田等不良  
徒ノ征討ノ命ヲ受ケ、茲ニ激派ノ勢カヲ顯復セントセリ

二十九日一泊ハ江戸駒込ニ到着 其ノ夜市川朝比奈佐藤等ハ小石川ニ至  
リテ藩主慶篤ニ会シテ 天狗黨ノ暴狀ヲ訴ヘ 武田山岡等ノ罷免ヲ進リ  
且ツ 討伐ノ急ヲ告ゲ又 討幕攘夷ノ氣勢ヲ明カニ  
又一才密カニ幕府ニ報ジテソノ暴狀ヲ告ゲ  
シテ 直ニ征討ノ命ヲ下サレシコトヲ云フ

#### 4 市川藩軍ノ將トナリ武田等ヲ討ツ

市川等ノ策勳効ヲ奏シ、藩主ノ意ハ傾キテ武田山岡ソノ他激派ノ人  
ヲ罷免シ 之ニ代ルニ鎮派ノ面々ヲ以テシ 加フルニ筑波ニ據ル武田等  
ヲ追討スベリ藩軍ヲ派遣スル事トナリ 市川三宅上門ヲ陣將トシテ 諸  
生約セ人ヲ率ヘテ 六月十七日竟ニ江戸ヲ発シテ 筑波ニ 討ツテ必  
ツルコトトナリヌ

#### 5 幕府追討軍ヲ出ス

忽チ官軍ヨリ小箭十發程打出セバ撒其並兵モ敵百挺ノ小筒ヲ  
連発シケレバ兵雷ノ鳴渡レカ如クニシテ 敵ノ声モ聞エザリシカ  
味才進マント陣太鼓ヲ打ツテ小松山ノ中ヲ押通レハ 此大鼓ノ音  
ニヤ驚キケソ官軍ノ砲声ニヤ恐レケシ 賊ハ洞下ヲサシテ逃ゲ行  
キケレバル九町追馳ケシガ夕陽ニ及ビケレバ總軍引揚ゲル 今日  
ノ戦ニ賊ニ人即死 味才一人モ怪我ナシ 夜五ツ時總軍下妻へ歸  
陣

筑波勢終日良ク戦々共家寡敵セズ一旦退却ノ色ムヲ得ザル所トナリ 夜  
半一度筑波ニ引返スコトトナリ又

## (二) 下妻ノ夜襲

高祖道ノ戦ニ敗レタル藤田等ハ 八日筑波山ニ軍議ヲ凝ラシ寡ヲ以テ  
大軍ヲ討ツハ夜襲ニ依ル外ナシトシ 矢陣ヲ飯田軍藏ニ陣ヲ川又茂七  
郎ニ陣ヲ林百太郎 田陣ニ齋六 土陣ニ田小四郎ト定メ 市毛孝之  
介栗田源光王門ヲ警監ト定メテ 勝ニ氣驕ル甚軍ヲ一撃ニ敗ラントセリ  
斯クテ 二日八ツ時(午後二時)一行ハ凜然トシテ波山ヲ諒出シ 明

ケ、六ツ時頃下妻裏ノ多寶院ニ達ス

コノ夜暮半ハ祝盃ヲ多聞院ニアゲテ勝チ譽リ心願ル緩ミ并タリケレバ  
幕府等ノ夜襲ニ我預措ク所ヲ知ラズ、一同昇ヲ亂シテ敗走シ、學ツテ江  
戸ヘ引揚ケアリ

### 6 市川勢(書生流)水戸ニ歸リ暴徒ヲ勤ク

市川ニ五衛門下妻ニ大敗シテ退却スルヤ、其ノ翌等ニ於テ江戸藩邸ニ  
大改陣起リ、鎮派ノ同志朝比奈佐藤等ハ衆免セラレテ、江戸ハ街ビ激派  
ノ天下ノナリ振タリ、

市川等ハ江戸ニ彈還ミナラス、朝比奈佐藤等ト共ニ杉戸驛ヨリ引キ返シ  
テ水戸ニ歸リ捲土重来ノ策ヲ講ゼントセリ、

二十三日市川等水戸ニ入城スルヤ、同志鈴木石見守、伊藤玄蕃、宇都宮  
弥三郎等ト相闘リ、反対派(天狗黨)ノ入々ニ対シ、残虐ノ限リヲ盡シ  
或ハ幽閉シ、或ハ獄ニ投シ、ソノ家ハ是ヲ論ヨリ、村子毀シ、ソノ妻子童

子ニ至ル迄斬罪最者ニ附シテソノ暴悪人為ノ限リテツクシタリ

### 幕府西ヒ追討ノ大軍ヲ發ス

七月九日幕軍下妻ニ大敗スルト幕府ハ怒リテ更ニ大規模ノ追討軍ヲ派遣スル事ニ決シ 参改田沼玄蕃頭ヲ總督トシ 水戸府中並南土浦安戸下館ソノ他ノ近藩ニ令シテ追討ツテ去テシム 田沼等即チ七月二十六日江戸ヲ發シ 八月二十日結城ニ至リ 二十三日鳥居丹波舟ヲ先陣トシ一万余ノ兵ヲ率ヘテ筑波ニ何ノコノ時小田部等波小勢ハ賊ニ七月下旬山ヲ下リ 小川地方ニ移リテ山中ニ集兵ヲモ留メザリキ

### 8. 波山勢南下シテ小川ニ陣ス

波山勢ハ下妻ノ一戰ニ大勝ヲ得シ 一旦筑波山ニ歸陣シタルモ 幕軍大擧シテ來ルノ報ニ接シ ソノ大軍ト戰ヘテ勝算ナキヲ悟リ 討幕ニ先ンジテ先ツ死ヲ得ンテ糧ヲ棄行セシトシ 七月三十日前後筑波ヲ下リ



テ一隊ヲ海軍ニ一隊ヲ潮來ニ一隊ヲ小川ニ移シ本營ヲ小川ニ置キ又

### 三 鯉淵勢ノ起リ

## 小川勢水戸ニ市川等ヲ討ツ

市川等ノ水戸ニ於ケル反封派ニ封スル暴狀ハ日ニ募リ之ヲ見ルニ忍

ズト為シ藤月小四郎岩谷散一郎ヲ軍將トシ石牧行藏千種太郎等

三百余人ヲ率ヘテ七月二十四日小川館ヲ發シ水戸ニ討ツテ出ツ

長岡口ニ於テ軍議ヲ開キ兵ヲニ隊ニ分チテ一ハ台町ヨリ藤柄町ニ向テ

一ツハ清水町口ヨリ水戸城ニ迫ラントセリ

市川勢早クモ之ヲ知り町ノ四方ヲ固メテ市川佐藤鈴木(石見守)

等自ら出陣シテ水ニ渡サジト指揮シ波山勢(天狗堂)トノ決戦ヲ待

受ケタリ

市川三宅衛門書生堂ヲ指揮シテ七軒町口ニアリシニ天狗堂ノ隊千

草六郎三橋半六等鯉波ヲ揚ゲ列ヲナシテ藤原町ヨリ進ミ來リケレバコハ  
ニ兩軍相会シテ激戦トナレリ

波山勢中千葉小六郎始メ討タレタル者モ少カラス 隊靜岩谷敬一郎ハ馬

ヲ討タレタリ

藤田飯田等モ良ク戦ヒタルモ竟ニ崩立チテ止ムナク長岡ニ退却ス

次ニ清水町ニ向ヒタル波山勢ニ百余ハ酒門村常照寺ヨリ田中ヲ經テ清水

町紺屋町ニ至リニ分レテ押寄セタルモ之亦諸生等ニ討メ立テラレ 酒門

村ニ引上ケ後長岡驛ニ引去リタリ

## 2. 鯉洲勢ノ起リ

斯クテ戦慄ハ愈々本村ニモ迫リヌ 先ニハ筑波ノ擧兵ニ際シ軍資調達

ノ問題ヲ常南地方ノ難苦ノ実狀ヲ詳ニシ 近クハ天狗一黨ノ小鶴長岡附

近邊邊ヲ見水戸城外ノ激戦ヲ見ル 何時村落ガ戰場トナルヤモ濶リ知ル

ベクモナク村民ノ不安甚シキモノアリキ

時ニ西方北方ノ村々ニ軍資請達ニ名ヲ籍レル浮浪横行ストノ風設頗リ  
ニ流レ 或ハ筑波勢ニ追ハレタル田中憲藏 齋藤シズル 等ノ風評モ  
アリ 村々甚ダ物騒ナリケレバ 有志面々相寄り相詰リテ自警ノ決議ヲ  
練リ近村ノ人々ト共ニ共同防衛ノ手筈ヲ定メヌ  
斯クテ元治元年七月ニ十五日村才一同近村ノ有志面々相會シテ非常ニ際  
スル前後策ノ協議ヲ行ヘ賊徒追討ノ決議ヲナシ  
「鯉刈村親村トナリ組合四千五ヶ村軍中一戰場ニ倚クノコト」  
ノ約束ヲ樹メテ解散セリ

コノ決議コソ漸次述及ントスル 「鯉刈勢」乃至「鯉刈竹槍組」或ハテ締紳  
組トシテ罪ナキ天狗黨ノ人々ヲ賊徒トナシテ苦メタル 市川黨ノ忠実ナ  
ル農民兵ノ起原ナリシナリ

サレバ鯉刈勢ハ之ヲ書生派ナリト言フ者アルモ誠然タル書生派ニアラス  
賊徒討伐ノ自警団トシテ生レタルモノヲ 領土ノ關係上 時ノ水藩ノ權  
カ者市川等ニ依リテ線從サレ 幕府追討軍ノ來ルニ及ビテ益々忠実ニソ

ノ命ヲ奉ジテ悔キタル農民ニシテ別ニ思想的活躍ニ了ラズ、水藩ニ於ケル激派鎮派ノソノ一才ニ組シタルモノモアラズ、只市川ノ命ヲ奉セシ得メニノミ、鯉淵塾ヲ書生壇ト稱スルモツナリ。

### 3 田中愿藏ノ討伐

#### (一) 田中愿藏

藤田小四郎府中ニ於テ筑波學兵ノ議ヲ起スヤ、彼ハ兵先ニ参加シテ其ノ議ニ賛シ、日光進出ニ當リテハ中軍總長ニ任セラレテ筑波ノ重鎮ヲナセリ。

筑波勢大平山ニ據ルニ當リテハ、彼ハ同志ノ糾合ト、軍費ノ募集ニ任ジ

上州野州ニ赴ク

押シテ到ル所富塚ノ家ニ押入り掠奪ヲ姿ニシ、下野ニ入りテ壬午生町ヲ

遠村一坊朱町ニ放火シ、上野附近ニ於テハ大砲ヲ以テ威嚇シ、真鍋町

ヲ燒討シ、陣屋ヲ討シ立テ小落ヲ威嚇スル等ヲテ狂暴ヲ致テガルナシ

田村總裁幾度之ヲ止ムルニ南カズ、藤田等トモ意見ノ相容レサルニア  
リテ、竟ニ筑波勢ハ田中ヲ除名スルニ至レリ。  
ソノ後モ田中ハ少シニ改悛ノ狀ナク、益々ソノ暴狀ヲ増シ掠奪ヲ業トシ  
テ諸方ヲ荒シ續ケタリ。

## (二) 中妻村追討

北部地方ニ暴虐ノ限リヲ盡セシ田中愿藏ハ七月二十八日順次南下シテ  
作倉井村ヲ経テ鯉淵村ニ至リ、晝食ヲ為ストノ先觸米以テ

村民頗ル狼狽シ直ニ協議ヲ肉キ、追討ト決シ、コノ旨直ニ早馬ヲ以テ  
組合ノ村々ニ注進シケレバ、組合ハ直ニ人足ヲ出シ其ノ數凡ソニ百人  
田中勢ヲ入村ヲ拒ミテ飯島村迄出陣セリ

然ルニ田中等ハ鯉淵村ノ下隈ヲ圍キテ中途ヨリ道ヲ蔽ハ、大足村ヲ廻リ  
杉崎村ニ掛ラントス

味方ハ直ニ赤尾崩、筑地ヲ経テ杉崎村箱入口ニ進撃シテ敵ト相合ス

直ニ大筒小銃ヲ以テ戦ハ、関カレ味方ノ蘇波頗ル勇シク、激戦ニ数刻ニ及  
ビ敵ハ崩レ立テ、木筒大砲ヲ捨テテ、三湯村ニ逃レ小原村ヲ経テ穴戸元  
町ニ走リテ宿陣セリ。

### (三) 土師村合戦

明カレバ二十九日昨日ノ總勢ニ一段ト人足ヲ増竹槍姿勇マシク繰リ

出テ田中勢追討ヲ續行ス。

時ニ田中勢ハ穴戸ヲ發シテ土師村ニ来リ淡島神社附近ニ屯ス。

組合才住吉村ニ至リテ謀ヲ立テ、此所ヨリ兵ヲニ手ニ分ケテ一隊ハ本

道ヨリ一踏土師ニ迫リ、一隊ハ大古山ヲ廻リテ洞沼川ノ淺瀬ヲ渡リ、敵

ノ背後ヲ突ントセリ。

茲ニ本道ヨリ進ミシ一隊ハ住吉ヨリ土師ニ入り、淡島神社側迄進軍ス

レバ敵ハ明神山ニ陣營ヲ張り砲ヲ依セ幕ヲ張りテソノ様突ニ物々シ

組合才敵渡ヲ上ガテ攻メ立テレバ、敵ハ馬ニ跨リ大刀ヲ押取リテ押寄せ來

ル者大筒小筒ヲ打出ス者等アリ  
 味才ハ命ト頼ム竹槍一本ニ満身ノ度槍ヲ打込ミ  
 鎧武者何カ了ラント敵  
 ノ遠近切ツテ入りケレバソノ勇サ一喻フルニ物ナク  
 大古山廻り別  
 手ニ隊加ハルニ及ビテハ尚更激シキ戦ヒトナリス  
 コノ戦ニ敵才先手ノ大將田山某小泉豊等ハ馬ヨリ引キ落サレテ傷キ  
 他多クノ手負戦死ヲ出シタルモ味才ニ於テハ鯉淵村ノ兵衛内拍井  
 村ノ源衛門仁古田村ノ萬吉野曾村文治等戦死シテ往吉村ノ權衛門  
 空村常吉等手負ヲ受ケタルノミニテ損害頗ル少カリキ  
 夕刻至ニ兵ヲ引キ上ケ陣陣シタルモ味才ノ隊味十分ニシテ敵ハ  
 夜何レニカ引キ去リタリ

四 那珂河畔ノ戦雲

1. 慶篤国ニ下リテ藩乱ヲ鎮メシメス

市川三左エ門等ノ專横ヲ怒リテ出陣セル武田等小川勢ガ一度水戸ニ攻  
メ入ルヤ水藩舟ニ於ケル攘夷徒幕兩黨ノ靴轆ハ愈々迫耳ヲ加ヘ水戸  
領内ハ頗ル怪然タルモノナリキ

茲ニ於テ藩主徳川慶徳固ニ睨リテ之ヲ鎮撫セントシ軍情ヲ具シテ幕府  
ニ訃ヘ之ヲ許サレシコトヲ乞ヘシモ許サレズ慶等止ムテ友藩  
戸松平大炊守頼徳ニ命ジテ封内ヲ鎮制マシメントシ旨ヲ含メテ水戸ニ向  
ハシム

## 2 松平大炊守頼徳市川等ヲ討ツ

### (一) 本隊水戸ニ向フ

元治元年八月四日松平大炊守頼徳ハ水戸藩主慶篤ノ代理トシテ附家  
老山中新五衛門中山民部以下五十余人ヲ從ヘテ水戸ニ赴キ市川等ノ暴  
狀ヲ押ヘントセリ

時ニ六月下旬市川黨彈劾ノタメ南上セシ執政神泉新左衛門參政ニ木下



夫等七百餘人ヲ率ヒテ之ニ附隨シ水戸ニ向フ  
不總小倉ニテ武田精麿齋モ之ニ加ハリ一行府中ニ達スル頃ハ  
人ニ達シコト一隊ヲ世ニ大發勢ト稱ス

岩谷敏一郎 波山勢ヲ代表シテ之ヲ出迎ヘ其ノ勞ヲ稱ス

斯クテ八月堅倉ニ泊リ 九日ハ暴風雨ノ為メ滞在シ 十日出發シテ小倉

ニ至レバ 村民壁ヲ設ケ竹槍ヲ携ヘテ 藩公ノ命ナリ通過スベカラズ

トテ嚴トシテ扼守シテ解カズ 依リテ郡才元締 野村佐三郎ヲレテ諭サ

シメ初メテ理罪ヲ解シ軍ヲ通過セシム

小倉ニ至レバ市川勢既ニ蒜河川ノ橋板ヲ徹シテ(今ノ高橋) 防備ニ努メ長

岡ニ至レバ村中人影全クナク家皆空ナリ

偶々(中海老子屋)壽屋富藏家跡スルト御キ 訪キテ晝食ノ用意ヲナリ

シメシテ 宿藏 藩公ノ命ナリ 若シ濱街道ヲ東ニ行クモノアラバ

貴賤ハ大飯ノ用意スベカラズ 茶ヲ犯セシ者ニハ死罪ヲ掛附ケルトノ嚴

命アリト稱シテ應ゼズ 理ヲ盡シテ漸ク午食ノ用意ヲセシメ 午後

# 14 塩崎出陣

九月甲旬ヨリ幕軍ハ那珂港ノ攻撃ニ移リ 同時ニ平磯ニアル筑波勢ヲ  
 モ牽制スルコトトナリ 幕軍ノ大部ハ塩ヶ崎ニ移リ 北條新太郎 市川  
 三左エ門等水戸書生隊ハ 那珂川ヲ渡リテ 辺田野ニ進ミヌ  
 鯉淵勢ハ九月ニ十五日 郡方役所ヨリ兵糧リノ他ノ手当ヲ受ケ ヲノ夜水  
 戸神應寺附近ニ宿營シ 二十六日ハ早朝ヨリ塩ヶ崎ニ出陣シ長福寺ニ屯  
 シテ 田口平岡四郎兵衛ヨリ兵糧ノ手当ヲ受ケテニ十八日迄大貫町ニ宿陣  
 スベキ事ヲ命ゼラレタリ

# 15 中根繰込

九月二十八日、朝田沼玄蕃、メニ依リテ 鯉淵勢ハ中根村ニ出陣シテ  
 北條新太郎、麾下トナル可キ旨言前ヲ以テ通達サレヌ  
 直ニ 北條ノ陣所ニ繰リ込ミテコノ旨申出デシニ ツノ夜ハ中根ニ宿陣  
 シテ命ヲ待ツ可キ旨仰セラレ直ニ宿舎ヲ定メントスレバ 中根ノ農家ハ

先着ノ友軍ニ依リテ満々 止ムナクソノ夜ハ三反村ニ泊リ 明ニ十九日  
中根ニ出陣シタリ、

# 16 市川三左エ門奥方附トナル

中根村宿營中ノ鯉洲勢ハ代表ヲ派シテ市川三左エ門ノ御機嫌ヲ奉伺シ  
又 三左エ門大イニ喜ビテ 鯉洲勢ノ中半数ハ市川勢ニ繰入レラル可キ  
旨仰附ケラレシガ 代表ノ者等總勢オ附シタキ旨申入レシニ 北條等ノ  
ト添ニヨリテ残ル半数ハ奥方附トナリテ水戸ニ上ル可ク命ゼラル  
コレヨリ奥御殿固マハ晝夜共鯉洲勢ニヨリテ差立テラルコトトナリヌ

# 川 赤縹緋七百人分拜領

十月一日北條新太郎鯉洲勢ノ活躍ヲ賞シテ赤縹緋五百人分ヲ賜リ、尚  
續イテ不足分ニ百人拜領一月大イニ感涙ソテ忠勤ヲ契ヘ、 何レモ肌身ニ  
ツケテ喜ビ谷ヘリ

二日 馬渡打ニ賤出現ストノ報ニ接シ 一圓繰り出シタルモ 拵剣ノ事